



# 行ってみよう！ 就航都市

## 「北アルプスを遊覧飛行」 松本空港（松本市）

北アルプスや美ヶ原高原など、周辺の高い山々に囲まれていることから、日本で最も標高の高い松本空港での離着陸には、パイロットの高い技術が必要とされるそうです。3,000m級の山々を見下ろす窓からの景色は、ながら遊覧飛行のようです。

松本市で開催される国際的な音楽祭、セイシ・オサワ松本フェスティバルは、世界中から優れた音楽家が結集し、オペラやオーケストラコンサートなどの多彩な演目のほかに、青少年育成のための教育プログラムが実施されます。フェスティバルに合わせて市民が参加するさまざまな関連事業も行われ、松本市の夏は音楽一色。また、オーケストラの演奏をリアルタイムで鑑賞できるスクリーンコンサートが国内の各地で行われ、豊中市も開催地になっています。



国宝松本城と北アルプス。



©山田毅

豊中市は、大阪国際空港の就航先である34空港40市町村と都市間交流を進めています。そのなかでも特に交流が深い就航先空港と就航都市の魅力をご紹介します。

## 「滑走路を走ろう！」 石見空港（益田市）

石見空港では、普段は入ることができない滑走路がコースの一部となるマラソン大会が開催されています。壮大な滑走路、キラキラ輝く日本海、赤い石州瓦が懐かしい田園風景というコースに魅かれて全国からマラソン愛好家が集まります。

自転車によるまちづくりを進める益田市では、同じく滑走路がコースの一部となるサイクリングイベントが毎年開催されているほか、自転車競技のアイランズ代表チームのキャンプ地ともなっています。

また、迫力のある舞臺豪華絢爛な衣装が特徴的な石見神楽が盛りで、幼いころから神楽に親しんで、舞手になりたても多いそうです。



## 「阿蘇山の雄大な景色と歴史遺産」 熊本空港（菊陽町）

熊本空港は菊陽町の南部に位置し、雄大な阿蘇山を望むことができます。菊陽町は熊本県の北東部、阿蘇山に源を発した白川の中流域にある平坦地に位置し、自然豊かななかにも都市機能を併せもつ町です。

町は、水はけがよく肥えた火山灰土壌と気候が栽培に適していることから、米、麦、野菜などの農業が盛んであり、特に「菊陽にんじん」はクセがなく甘くておいしく評判です。

また、土木の神様とも呼ばれる初代熊本藩主・加藤清正公により築造されたと伝えられる「馬場楠井手の鼻くり」は、火山灰の堆積を防ぐために水路の一部に壁を残して穴を穿つなど、他の用水路にはない特殊な技法が用いられています。熊本地域の水田を潤し農業の発展に貢献した歴史的価値のある農業用水利施設であることから、白川流域かんがい用水群の一つとして、平成30年8月に世界かんがい施設遺産に登録されました。



市役所第一庁舎に置かれた記載台。

## 「地球を知る」 隠岐空港（隠岐の島町）

隠岐諸島4島は、その貴重な地質や地形、環境によりユネスコの「世界ジオパーク」に認定されています。隠岐空港は、すべしほの牧草地で草をはむ隠岐牛の姿を見ることができ、のびやかな場所にあります。

隠岐の島町は、古くから林業が盛んな島。植林してから伐採するまでに約150年間を要し、親が植えて子が育て孫が伐採すると言われます。世代を越えて山を守るという島民意識が培われて、島全体で森林認証を取るなど自然環境保護の取り組みがなされています。その隠岐の島町から平成30年（2018年）12月に、町産の松で丁寧につくられた記載台が豊中市へ贈呈されました。松独特の銜色の木肌が美しく、木の香りに心が癒される記載台に触れて、隠岐の島町の自然を感じてみてはいかがでしょうか。



約500万年前に噴出した火山岩から形成されたローソク島。



## 「ウルトラマンに会える！」 福島空港（須賀川市、玉川村）

福島空港のある須賀川市はウルトラマンの生みの親で、特撮の神様と称される円谷英二監督の出身地。その縁で、須賀川市はウルトラマンの故郷「M78星雲光の国」と姉妹都市となっており、市内の松明通りでは、ウルトラヒーローや怪獣たちのモニュメントを見ることが出来ます。今年1月に開催した市民交流センター「ULTRA TOWN」内には「円谷英二ミュージアム」もあります。

また、空港ではウルトラマンの立像やジオラマ等の常設展示があるほか、ウルトラマンボストから投函された定型郵便物には、ウルトラマンの消印が押されます。須賀川市で250年以上の歴史をもつ須賀川牡丹園は牡丹園としては全国で唯一国の名勝に指定されています。毎年11月に行われる「松明あかしほ」400年以上の伝統を誇ります。



©円谷プロ



また、「南須釜の念仏踊り」は、またあどけなさの残る少女があでやかな花笠をつけて踊る、江戸時代から続く民俗芸能で、福島県の重要無形文化財に指定されています。毎年4月（大寺薬師祭）と8月（東福寺境内）に奉納されます。

玉川村の特産であるさるなじは、キウイフルーツの原種で、果実は「コクウ」とも呼ばれます。粒の大きさは3cm程度、ビタミンやミネラルなどの栄養素が豊富なスーパーフルーツです。あまりのおいしさに、猿が食、へて無くなってしまうことが名前の由来と言われています。玉川村では、9月下旬から10月下旬にかけて、摘み取り体験を行っています。

